

大熊町を 端から端まで ● 知りつくそう！

●第1回 県立大野病院



開院当時の北向きの玄関

それは木枯らしとみぞれの冷たい日だった。人々は驚きと期待と不安と…。そして、寒さと感激とに震えながら、霜柱を踏んで立っていた。初代院長、猪狩先生のあいさつのうちに、病棟建築の槌音は鳴り続いた。力強い断固たる院長の挨拶と阿武隈おろしの洗礼を受けつつ、吾が大野病院は、今日ここに誕生した。嗚呼、大野原く先、幸多かれと祈る。（職員アルバムより抜粋）

昭和三十年代、職員、軽症患者ともども、娯楽も治療のうち、と運動会、演芸会、仮装行列などが行なわれ、かなり家族的な雰囲気の病院だった。

「大野病院大演芸会」のぼりが立つほど盛大なものだった。養護学級の子どもたちも担任の先生と一緒に参加。今は、親となり、孫のいる方もなつかしい思い出となつていることでしょう。

悲願達成、 大野病院建設 レクリエーションの 想い出

ふるさと 再発見

公共施設を訪ねて

今回から、大熊町にある公共施設を訪ねます。県立大野病院、役場、学校など時代の遍歴とともに変貌してきた今昔を追ってみます。

県立大野病院は元大野村村長であつた県会議員の木幡一清氏の尽力と、病院敷地の提供と建設費の一部負担金を、大野村の建設予定地の地主十数名と当時の近隣各町村の負担金で進めら

れた。
更に、昭和二十六年八月大野病院に結核療養所と伝染病療養所を併設することをきめた。その後の建物・設備の新增設と診療科目の新設・廃止等があり現在に至っている。（大熊町史より抜粋）



当時の職員運動会

昭和26年12月5日 開院

〔時鐘〕

中央廊下の屋根上

(診療科目／内、外、産婦 病床／30床)

昭和27年9月 結核療養所設置 (増床／168床)

昭和29年6月 県教育保養所併設 (増床／58床)

昭和30年2月 時鐘を建立

2町1村組合立伝染病棟併設 (病床／18床)

昭和30年3月 準看護婦養成所併設 (定員1学級20名)

昭和33年3月 県の都合により準看護婦養成所を一時中止

昭和33年4月 結核養護学級を教員保養所内に開設、専任

教員2名の配置を受け業務開始 (定員40名)

結核患者の漸減により結核病の一棟を一般

疾病病棟に改造

昭和38年1月 整形外科を増設

昭和40年9月 治療棟火災・同年6月復旧

昭和41年3月 教員保養所を廃止し、大野病院に全面移管

昭和42年3月 病棟他一部解体し、病院改築工事着手 (鉄筋コンクリート一部2階建て)

昭和43年5月 病院改築工事完成及び併設伝染隔離病舎完

成 (15床)

昭和47年6月 新病院に移転、診療開始 (165床)

昭和54年9月 外来診療棟及び病棟増改築 (8床増床)

昭和56年8月 外来診療棟及び病棟増改築 (2床増床)

昭和61年11月 救急協力病院指定

昭和63年4月 結核病棟を廃止し、一般病棟とする (17床)

平成4年9月 伝染隔離病舎を廃止し、大野病院の施設として取得 (15床減床、158床→153床)

平成5年4月 運用病床数変更 (158床→153床)

平成10年9月 県立大野病院整備基本構想を策定

平成13年2月 新病院建築工事着工

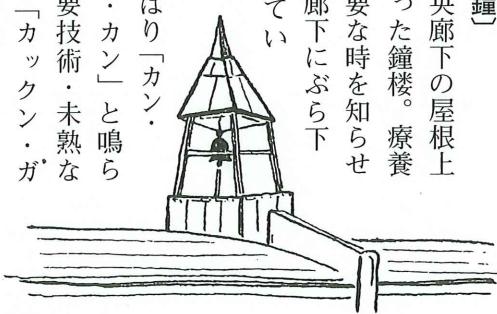
平成14年4月 麻酔科増設



昭和41年3月 診療棟火災

なかなか風情があった。
鐘は四方に鳴り響き周辺の人々に時を告げた。

ひっぱり「カン」。
カン・カン」と鳴らす。要技術・未熟な
音は「カツクン・ガ
クガク・ガラガラ」と。



昭和41年6月 復旧

昭和四十一年三月の病院火災の時、地域の人々が、炊き出しのおにぎりをいち早く届けてくださった。水雨の降る中での跡かたづけ、寒さと疲れで憔悴した体に温かいおにぎりがうれしく、感激の涙を流した。

炊き出しの飯子ぬくもり春の雨



期待される新病院

新しい病院は今までの診療科目に小児科、眼科が新設される予定とのこと。駅のエレベーターを降りて、最新の医療を受けられる。やさしい看護さんに看護してもらい、環境のよい病院だつたら、病人も減るのでは?と期待される。